

はじめに

近年、環境問題は世界的にますます深刻化し、日本でも、東日本大震災や昨今多発する異常気象を契機に環境問題の社会経済に与える影響や安全・安心の観点が再認識され、環境施策にこれまで以上の役割が要求されています。

本市では、これまでも、環境改善と環境汚染の未然防止のための監視・調査・研究等に継続して取り組んでまいりましたが、平成25年2月に(旧)公害研究所・(旧)公害監視センター・(旧)環境技術情報センターの3機関の統合・再編を経て、新しい環境総合研究所を発足してからは、川崎の優れた環境技術による国際貢献の推進や優れた環境技術情報の収集・発信、「都市と産業の共生」を目指した研究の推進、市民団体や企業等と協働した環境学習などに新たに取り組んでおります。

今後は、特に、国際・研究機関や企業・大学・NGOとのネットワークをさらに拡大するとともに、これまで行ってきたアジアの都市や地域との連携を一層強化し、川崎の強みと特徴である環境技術・産業の集積を活かした国際貢献に取り組むことにより、本市が目指すグリーンイノベーションの推進につなげていきたいと考えております。

また、当研究所の立地する京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区であるキングスカイフロント(川崎市川崎区殿町地区)は、多摩川河口に位置し、羽田空港にもほど近く、その利便性を活かしてさまざまな研究機関の集積が進んでいます。

こうした立地特性を活かして他の研究機関や企業、市民団体など多様な主体と連携しながら、さらなる環境の改善に関する取組を進めてまいります。

今回、発行いたします「川崎市環境総合研究所年報第2号」は、当研究所の初年度にあたる平成25年度の取組を取りまとめたものでございます。当研究所の新たな旅立ちの1年間の足跡を御高覧いただきまして、御指導を賜れば幸いに存じます。

当研究所職員一同、開かれた環境総合研究所として、また、環境行政を科学的・技術的に支援する中核組織としてその役割を果たし、地域の環境課題の改善につなげていくとともに、地球規模の環境改善に向けた国際貢献に取り組むことにより、更なる発展に結び付けていきたいと考えております。

今後につきましても、当研究所への御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

2014年12月

川崎市環境総合研究所

所長 横田 覚